

# 政界のキーパーソン

衆院選の焦点は何ですか。

前回の衆院選以来の4年間で、日本社会の安心の仕組みは随分と崩れた。農村や食安全の問題を含めて、社会のセーフティーネット(安全網)を作り直すのが、民主党の提案だ。

自民政権による砂漠に水をまくような一時的な経済対策は、効果が長続きしない。社会の安全網を整え直して保水力のある土壌を作り、そこに水をまいて、植物を育てることが大事だ。「民主党には経済政策がない」という麻生太郎首相の批判は当たらない。

——農政はどうあるべきでしょうか。民主党は2007年の

参院選で、農業の戸別所得補償制度導入を3大公約に格上げした。農業政

策を政権公約で重点政策に据えた政党は、かつてない。この流れは決して変えない。農政は農業者と消費者双方にとって重要なものだ。重点政策にするのは、日本の食を守るというメッセージだ。

民主党政調筆頭副会長  
細野 豪志氏



# 農政重点流れ変えぬ

09.7.25  
日本農業

——民主党の戸別所得補償制度には、構造改革の視点が薄いとの指摘があります。

——民主党の戸別所得補償制度には、産業政策に偏り過ぎていた。今は、農業・農村の基盤の底が抜けかけている。まずは足場を固めることが大事だ。足場を固めないと、構造改革

設計と同時に、さまざまを試みをする。実施が必ずしも3年後、2年後に終わるといって話ではない。政界再編について、どう考えますか。

——政界再編について、どう考えますか。望むのは政権交代で、民主党政権が10年間、安定

会政策の両面があり、バランスが大事だ。小泉政

権などによる農政改革すれば、所得補償制度の

望むのは政権交代で、

安定

——官僚や農水省の信頼失墜について、どうみえますか。私は、頭から官僚に不信感を抱いているわけではない。ただ、長期政権の中で官僚に甘えがあったのではないか。だから不祥事が続出した。政権が代われば、みなさん、ぴりっとすると思う。農水省には、農業をなんとか立て直したいという純粋な思いを抱いている職員がたくさんいると思っている。農水省と政党が前向きな農業政策作りに向けて、めりはりをつけて手を携えることが大事だ。

8・30衆院選  
選 択